

日本産業衛生学会
近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男(地方会会長)
<http://www5.ocn.ne.jp/~jsohkink/>

第49回近畿産業衛生学会 (第3報)

主 催 日本産業衛生学会近畿地方会
共 催 兵庫県医師会、兵庫産業保健推進センター
学会長 西尾久英(神戸大学大学院医学研究科疫学分野)

日 時 平成21年11月14日(土) 9時30分開始
会 場 兵庫県医師会館(神戸市中央区磯上通6丁目1番11号)
一 般 演 題 9:30~11:40 第1会場(2階 大会議室)
10:00~11:35 第2会場(6階 2~3会議室)
幹 事 会 12:00~12:30 第2会場(6階 2~3会議室)
代 議 員 会 12:35~13:05 第2会場(6階 2~3会議室)
特 別 講 演 13:15~14:15 第1会場(2階 大会議室)
座長 西尾久英(神戸大学)
「中小企業の労働衛生の現状と課題」 鈴木克司(兵庫県医師会)
シンポジウム 14:20~16:50 第1会場(2階 大会議室)
座長 島正之(兵庫医大) 若林一郎(兵庫医大)
職場における新型インフルエンザ対策
「パンデミックに対する措置」 押谷 仁(東北大学)
「産業保健との連携」 田所昌也(兵庫県疾病対策室)
「都市ガスの供給継続にむけて」 浜田千雅(大阪ガス(株))
「総合討論」
懇 親 会 17:00~18:30(神戸東急イン)

学 会 開 催 の ご 挨 拶

西 尾 久 英

(神戸大学大学院医学研究科疫学分野)

第49回近畿産業衛生学会は、兵庫県医師会館にて開催させていただきます。同会館は三宮駅から南へ歩いて約10分の距離と、非常に便利な所にあります。奮って御参加たまわりますようお願い申し上げます。

今回の学会は午前中に一般演題、午後に特別講演とシンポジウムを企画しています。午前中の一般演題では、会員の貴重な研究成果が報告されますので、御期待下さい。なお、一般演題の口演発表は9時30分から始まります。例年より少し早いスタートですが、宜しくお願いいたします。

特別講演では、鈴木克司先生(兵庫県医師会理事)に「中小企業の労働衛生の現状と課題」と題し、兵庫県下の中小企業の調査結果をお話いただきます。昨今、中小企業で働く人の過労が問題になっています。

経済不況のもと、健康問題が二の次になってしまっている現状が不安です。

続いてシンポジウムでは、「職場における新型インフルエンザ対策」を主題とし、押谷仁先生(東北大学)からは「パンデミックに対する措置」、田所昌也先生(兵庫県)からは「産業保健との連携」、浜田千雅先生(大阪ガス(株))からは「都市ガスの供給継続にむけて」のお話をうかがいます。その後の総合討論では、フロアーの参加者も交えて、意見を交換していただく予定です。

インフルエンザの流行が心配ではありますが、どうか無事に学会が開催できて、多くの会員にお越しいただけますよう、第49回事務局一同心より願っております。

第49回近畿産業衛生学会一般演題プログラム

一般演題 (口演)

第1会場 9:30～11:40 (2階 大講堂)

9:30～10:15

座長: 鮫島真理子 (パナソニック健康管理センター)

(101) ケーキを日常的に食べなければならない、ケーキ職人は減量できないのかー事業所出張型健康教育活動の事例紹介ー

○太田博之 (ライフスタイル研究所)

(102) 特定保健指導の成果について

○嵯峨裕子、藤田正憲、木村隆、園伊知郎、服部忠、三原安律子 (近畿健康管理センター)

(103) 職域におけるメタボリックシンドロームと肝機能、尿酸代謝、心血管の障害予測指標との関連性の検討

○土手友太郎、山鳥江美、中山紳、今西将史、河野公一 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学 I・II 教室)

(104) 教育・事務職における内臓脂肪症候群の現状と業務内容および食習慣の及ぼす影響

○中山紳、土手友太郎、山鳥江美、今西将史、河野公一 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学 I・II 教室)

10:15～11:00

座長: 土手友太郎 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学 I・II 教室)

(105) 腹囲・BMIと高血圧症服薬・治療の関係

○下野勝巳¹、浪江弘美¹、阪上皖庸¹、藤田正憲¹、木村隆¹、村田和弘² (¹近畿健康管理センター、²近畿エコサイエンス)

(106) 腹囲・BMIと糖尿病服薬・治療の関係

○惠千恵子¹、寺田哲也¹、園伊知郎¹、藤田正憲¹、阪上皖庸¹、木村隆¹、村田和弘² (¹近畿健康管理センター、²近畿エコサイエンス)

(107) 腹囲・BMIと脂質異常症服薬・治療の関係

○寺田哲也¹、惠千恵子¹、園伊知郎¹、藤田正憲¹、阪上皖庸¹、木村隆¹、村田和弘² (¹近畿健康管理センター、²近畿エコサイエンス)

(108) 喫煙者の禁煙に対する意識と禁煙行動に関する縦断調査

○椋木麻那美¹、岩根幹能^{1,2}、網和子¹、淡路水須²、向井香那恵²、茂原治² (¹住友金属東向島診療所、²和歌山健康センター)

11:00～11:40

座長: 竹下達也 (和歌山県立医大 医 公衆衛生学)

(109) 本学における長時間労働者への医師による面接指導～時間外労働月80時間を超える全ての者を対象とすることの効果と意義～

○藤平和弘^{1,2}、小林俊三^{1,2}、清水光恵^{1,2}、竹迫大伸^{1,2}、高橋健太郎^{1,2}、飛松崇子^{1,2}、馬場久光^{1,2} (¹神戸大学保健管理センター、²神戸大学大学院医学研究科病態情報学)

(110) 夜間交代職務やシフトワークが健康状態に与える影響について

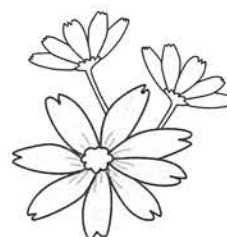
○矢倉宏祐^{1,2}、阪上皖庸² (¹りんくう総合医療センター 市立泉佐野病院、²近畿健康管理センター)

(111) 産業看護部会 08年度の研修会後のアンケート結果報告～07年度アンケート結果との比較も含めて～

○藤吉奈央子、荒木田美香子、石山珠江、井手陽子、上坂聖美、上田美代子、植本寿満枝、大脇多美代、鮫島真理子、鈴木純子、堤梨恵、長澤孝子、中島美繪子、原田昌子、平田真以子、松井治子、松本泉美、吉田広子 (近畿産業看護部会)

(112) 新型インフルエンザと医療従事者への補償問題

○福元 仁、吉益光一、竹村重輝、宮下和久 (和歌山県立医科大学衛生学教室)



第2会場 10:00～11:35 (6階 2～3会議室)

10:00～10:45

座長：北原照代 (滋賀医科大学 社会医学講座衛生学)

(201) 産業保健スタッフの活動実態と安全衛生マネジメントシステム導入における役割

○清田郁子¹、金原清之¹、大脇多美代¹、圓藤吟史² (¹大阪産業保健推進センター、²大阪市大・院・医学研究科産業医学)

(202) 労働適応能力とその関連要因 - work ability index を用いた製造業従事者5千人の解析 -

○西岡久之^{1,2}、鴻池義純²、上坂聖美²、車谷典男¹ (¹奈良医大地域健康医学、²奈良産業保健推進センター)

(203) 運転労働者の腰痛特異的QOLとその関連要因

○富岡公子¹、鴻池義純²、上坂聖美²、井上俊之²、有山雄基²、車谷典男¹ (¹奈良県立医科大学地域健康医学教室、²奈良産業保健推進センター)

(204) ごみ収集作業における職種別の身体活動の検討

○辻村裕次、埴田和史、北原照代、保田淳子、加藤正人 (滋賀医科大学 社会医学講座 衛生学)

10:45～11:35

座長：河合俊夫 (中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センター)

(205) 大学等の研究室における有機溶剤使用の特性

○池田正之、大橋史子、鶴飼博彦、長澤康浩 (京都工場保健会)

(206) 大気中PFOAの数値シミュレーション

○新添多聞¹、原田浩二¹、人見敏明¹、石川裕彦²、小泉昭夫¹ (¹京都大学大学院医学研究科環境衛生学、²京都大学防災研究所気象・水象災害)

(207) ICP発光分析法を用いたユウロピウムの測定

○大西圭以子¹、辻洋志¹、鈴木進一¹、白田寛¹、土手友太郎¹、河野公一¹ (¹大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学 I・II 教室)

(208) フッ酸ミスト吸入曝露後の急性肺障害による生体影響の推移

○今西将史、土手友太郎、山鳥江美、河野公一 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学 I・II 教室)

(209) 硝酸カドミウム反復気管内投与後の肺障害および生物学的モニタリングの検討

○山鳥江美、土手友太郎、今西将史、中山紳、河野公一 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学 I・II 教室)

幹事会 12:00～12:30 (6階 2～3会議室)**代議員会 12:35～13:05 (6階 2～3会議室)****特別講演 13:15～14:15 (2階 大会議室)**

座長 西尾久英 (神戸大学)

中小企業の労働衛生の現状と課題

鈴木克司 (兵庫県医師会理事)

シンポジウム 14:20～16:50 (2階 大会議室)

座長 島 正之 (兵庫医大)

若林一郎 (兵庫医大)

職場における新型インフルエンザ対策

① パンデミックに対する措置

押谷 仁 (東北大学)

② 産業保健との連携

田所昌也 (兵庫県疾病対策室)

③ 都市ガスの供給継続にむけて

浜田千雅 (大阪ガス (株))

④ 総合討論

懇親会 17:00～18:30 (神戸東急イン)

中之島クリニック
 PETキャンペーン

 PETベーシックコースおよびPETベーシックコース+胸部CT
 追加コースを11月～1月ご受診に限り、特別価格でご提供
 1 PETベーシックコース

84,000円 (税込) 通常価格: 105,000円

検査項目: PET-CT、各種腫瘍マーカー、便潜血ほか
2 PETベーシックコース+胸部CT

94,500円 (税込) 通常価格: 121,800円

検査項目: 「1.PETベーシックコース」に胸部CT追加
★画像診断 (PET、MRI、CT) 対象患者様をご紹介
ください。

ご一報いただきましたら迅速に対応いたします。

 〒553-0003 大阪市福島区福島2丁目1-2
 電話: 06-6451-6100
 予約専用: 0120-489-401
 E-mail: yoyaku@nakanoshima-clinic.jp
 URL: www.nakanoshima-clinic.jp

第49回近畿産業衛生学会

1. 会場へのアクセス



会場への交通機関

【JR、阪神、阪急、市営地下鉄（山手線）】
各線の三宮駅下車、南へ徒歩10分

【市営地下鉄（海岸線）】

三宮・花時計前駅下車、東へ徒歩5分

〒651-8555

兵庫県神戸市中央区磯上通6丁目1番11号

社団法人兵庫県医師会

TEL：078-231-4114

FAX：078-231-8111

2. 参加手続

事前申込みは必要ありません。学会参加申込みは、学会当日9：00より受付いたします。学会参加費は日本産業衛生学会の学会員1000円、非学会員2000円です。

3. 一般口演の演者の方へ

①演題10分（口演7分、質疑応答3分）です。会場内に次演者席を用意しています。

②発表にはPower Point をご使用ください。発表用ファイル（Windows Power Point 2003）は11月6日（金）までにEメールで送信するか、またはCD-Rを事務局までお送りください。

4. 幹事会および代議員会

幹事会は6階2～3会議室で12：00より、代議員会も6階同じ2～3会議室で12：35より行ないます。

5. 懇親会

学会終了後、神戸東急インにて懇親会を行ないます。奮ってご参加ください（会費3000円、懇親会場で受付ます）。

6. 認定産業医および認定産業医を目指す方へ

特別講演・シンポジウムに関しては、日本医師会産業医研修の単位認定（基礎研修（後期）または生涯研修（専門））の3単位があります。ご希望の方は当日受付してください。

7. 産業看護職の方へ

特別講演・シンポジウムに関しては、日本産業衛生学会産業看護職継続教育（実力アップコース）単位認定があります。当日受付の担当にお申し出ください。

8. 学会事務局（問い合わせ先）

神戸大学大学院医学研究科疫学分野 第49回近畿産業衛生学会事務局 西尾久英

〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-1 TEL：078-382-5542 FAX：078-382-5559

E-mail：myeong@med.kobe-u.ac.jp

厚生労働大臣功績賞を 受賞して

大阪市立大学

圓 藤 吟 史



このたび、厚生労働大臣功績賞を受賞いたしました。私は厚生労働省で小規模事業場における健康確保方策の在り方に関する検討会（1999年9月～2001年9月）、化学物質による労働者の健康障害防止に係るリスク評価検討会健康診断に係る小検討会（2008年6月）、労働安全衛生法における特殊健康診断等に関する検討会（2008年6月～）、地域における産業保健活動の推進に関する検討会（2008年6月～）、労働基準法施行規則第35条専門検討会（2009年3月～）の参集者になっていること、労災認定に関わる意見書をいくつか書いたことが評価されたと思われまます。

その中で、印象に残る仕事は、特化則の三酸化砒素が砒素及びその化合物に変更された際に、それに係る特殊健康診断項目について意見を述べ、その二次健診において、従来の毛髪中の砒素濃度を廃止し、尿中の砒素の量を、尿中の砒素化合物（砒酸、亜砒酸及びモノメチルアルソン酸に限る。）に変更したことが上げられます。ACGIHはBEIとしてそれらに尿中のジメチルアルシン酸（DMA）を加え、その総和でもって評価しています。DMAは無機ヒ素の代謝物で、究極発がん物質はDMAまたはその還元体などの類縁物質と考えられています。DMAは海藻類などの海産物からも代謝されますので、海産物を多食する習慣があるわが国では、職業性曝露のない多くの人々が基準を超えます。ヒ素の発がんを考えますとDMAを無視する訳にはいきませんが、モニタリングとしては食品由来か、職業曝露かの区別が必要であり、DMAは除くことが適当です。

ヒ素の発がんリスクについての研究は、私どもの教室では60年近く取り組んでいます。その成果の一部が、法令に加えることができたことに十分満足しております。今回の受賞は、諸先輩からのご指導と、皆様方のご鞭撻とお力添えの賜物と深く感謝いたしております。ところで、受賞した者の仕事として後輩に道を譲ることも考えなくてはなりません。本学看護学部生で産業保健師を目指しているものが多数いますが就職先がなく困っています。仲間に加えていただき、産業保健の発展に少しでも寄与できれば幸いです。

リワーク支援の利用経験 ～産業医としての感想～

東レ(株)

滋賀事業場健康管理センター

中 西 一 郎

各都道府県にある障害者職業センター（以降センター）では職場復帰支援（リワーク支援:以降リワーク）を実施している。

（詳細は<http://www.jeed.or.jp/disability/person/person01.html>を確認されたい）。

小生は企業の専属産業医であるが、メンタルヘルス不調による長期休業から職場復帰する際に、自宅での治療とウォーミングアップが十分でも、職場復帰にはかなりハードルが高いと感じるケースをよく経験する。リワークはそのギャップを埋めるものとして利用価値が高いと考えている。これまで数名の方に利用いただいたが、利用者からは好評であり、会社も有用と考えており、今のところ全員が復職を果たし、継続勤務中である。小生が考える具体的な利点を紹介する。

まず、利用者側の利点について記す。リワークへの参加は自宅でのウォーミングアップと違い、電車に乗るなどしてセンターに通う必要があり、生活リズムづくりと生活強度アップに好都合である。次にセンター内で事務職や作業職別の仕事の練習が出来るため、仕事や時間の感覚を取り戻す、あるいは疲れ具合を確認する等が可能で、復帰への自信につながる。最後にメンタルヘルス不調者同士のグループワークやSST（Social Skills Training）などを通じて、復職した際にストレス状態に置かれても適切な対応がとれるようになり、仕事に適応しやすくなることが期待できる。

次に会社側の利点としては、職場復帰前に一定期間センターに通いトレーニングしたという実績がつかみやすく、職場復帰を認める際に大変参考になる。また、リワークの途中で経過報告を本人と担当カウンセラーが上司や人事に行うこともあり、本人にとっては回復と復職意欲の会社へのアピールの機会になるし、会社も本人作成のレポートを見るなどし、回復状況が確認できるので受け入れの準備もしやすいということが上げられる。

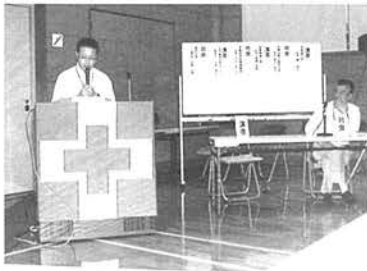
以上思いつくままにリワークの利点を述べた。メンタルヘルス不調対応が仕事の多くを占める産業保健スタッフは多いと思う。このような優れた社外資源の活用をお勧めする次第である。

技術部会研修会報告

技術部会

河合 俊 夫

2009年8月2日、日本産業衛生学会近畿技術部会は近畿学校薬剤師会と合同研究会を開催しました。研究会のテーマは「一般生活領域（住居、



学校、オフィス)に及ぼす有害化学物質の影響討論会」で行いました。この研究会の背景には、これまで有害化学物質の取り扱い事業所で勤務する作業者が主に受けていました有害化学物質の影響が、近年は一般生活環境まで影響を受けるようになり、その一つに住居ではシックハウス症候群が起り、学校やオフィスでも同じ様な症状が起こっていることがあります。特にシックハウスについては厚生労働省が対策や測定方法を示していますが、2009年4月から学校保健安全法が改正され、学校でシックハウス症状を示すとされる有害物質の測定、保存が義務付けられました。そこで、技術部会ではこれらの問題について研究会を実施しました。参加人員は学校薬剤師、教育委員会、産業衛生学会会員など、約50人が熱心に討論しました。下記に講演演者のタイトルについて示します。

日 時：8月2日（日）午後1時15分～4時30分
（受付開始12時30分）

場 所：中央労働災害防止協会、大阪労働衛生総合センター（大阪市西区土佐堀2-3-8）

講演内容：1.「シックハウス症候群—住居・学校調査事例を交えて」

司会 和歌山県立医科大学

教授 宮下 和久

演者 北海道大学 教授 岸 玲子

2.「学校保健安全法の改正について」

司会 京都府学校薬剤師会

会長 守谷まさ子

演者 兵庫教育大学 教授 鬼頭 秀明

3.「揮発性有機化合物の測定方法について」

司会 神戸大学 名誉教授 住野 公昭

演者 中災防・大阪労働衛生総合センター

河合 俊夫

4. 総合討論・大阪センター分析室見学

追伸：技術部会では最近の話題について色々研究しています。学会会員の先生方ぜひ、技術部会に参加してください。

看護部会研修会報告

7月11日 定例研修会に参加して

京都工場保健会・保健師

松好 順子

今回、初めて定例研修会に参加させていただきました。私自身、まだ産業保健分野での活動は浅く、また今年4月から企業外労働衛生機関という立場から健康管理室を担当させていただいているということもあり、健康管理室に来室してくる一部分の人だけではなく、全従業員に働きかけることの難しさを感じております。その中で、「職場を元気にする健康支援～ポピュレーションアプローチの実践例～」というテーマは、とても興味深く拝聴させていただきました。研修の前半では、石山珠江保健師から「就業前早朝15分運動の開催」、堤梨恵保健師から「ヘルスアップセミナーの開催」の事例を紹介していただきました。健康管理室のスタッフだけで活動するには限界があり、安全衛生委員会、他部署やその中でキーパーソンと連携をはかり、全従業員に周知してもらえるような環境を整えることの大切さを再認識しました。また、社外でも活用できる資源をも有効に利用して、様々な角度から働きかけることが重要だと感じ、とても参考になりました。

研修の後半では廣部一彦先生より、職場におけるポピュレーションアプローチの方法として、定期健康診断が最大のチャンスであり、その定期健康診断の活用方法（健診現場の活用だけではなく、結果通知の工夫や事後措置の方法）、展望についてわかりやすく説明をしていただきました。産業保健活動の実施プロセスは、経営学の考え方であるSTP戦略を活用しながら展開していくこと、目先の結果にとらわれるのではなく、知識や知恵を出して根気強く活動していくことで従業員との関係も構築され、結果も現れてくるのだろうということを実感しました。

今回、事例を紹介していただき、現場の生の声を聞くことができ、とても勉強になりました。今後もこのような研修会に参加し、日々勉強しながら産業保健活動に励んでいきたいと思っております。

第57回日本職業・災害医学会 学術大会 開催のご案内

会長

河野 公一

(大阪医大 衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ 教授)



この度、第57回日本職業・災害医学会学術大会を大阪・高槻市において開催させていただくことになりました。大変名誉なことでありますとともに、伝統ある本学会の名に恥じないように務める所存ですのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。高槻市は、クリスチャン大名・高山右近の城下町として近世に栄え、大阪と京都のちょうど中間に位置し北摂山系や淀川を望む中核市です。学会会場となります大阪医科大学キャンパスおよび高槻現代劇場（市民文化ホール）はJR高槻駅および阪急高槻市駅からも近く、参加される会員諸氏の交通の便を最優先とさせていただきました。本大会は大阪、和歌山、関西、神戸の近畿4労災病院および日本産業衛生学会近畿地方会のご指導のもと、大阪府医師会や高槻市の後援を得て開催されます。メインテーマは「働く人々の安全と安心を求めて 一職域と地域の連携」とし、働く人々の安全・衛生や医療に関する諸問題について、教育講演をはじめ各種シンポジウムやワークショップを軸に一般演題やランチョンセミナーを企画しています。一般演題も医療や看護など多様なジャンルから口演・ポスターを合わせ約180題もご応募いただきました。また昨今、国民的な課題となっています職域や地域の救急、災害医療体制について、地元医師会や行政を交えた市民フォーラムも開催いたします。本大会を実りあるものにするために関係者一同一丸となって頑張る所存であります。つきましては多数のご参加をお願い申し上げます。

1. 学術プログラム

メインテーマ「働く人々の安全と安心を求めて～職域と地域の連携～」

- (1) 会長講演
- (2) 特別講演
- (3) 教育講演
- (4) シンポジウム
- (5) ワークショップ
- (6) 労災病院等13分野医学研究報告
- (7) 海外勤務者健康管理研修会
- (8) 一般演題（口演・ポスター）
- (9) ランチョンセミナー
- (10) 市民フォーラム 他

2. 会期：平成21年11月21日(土)～22日(日)

11月21日(土)学術発表、ランチョンセミナー、総会、評議員会、懇親会

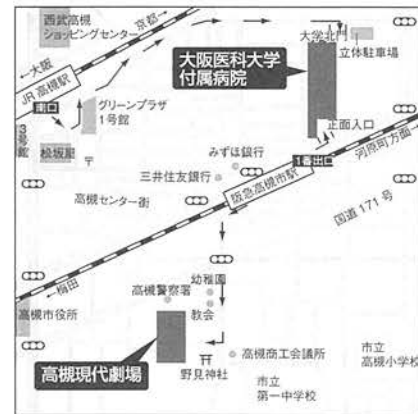
11月22日(日)学術発表、ランチョンセミナー

3. 会場：大阪医科大学（キャンパス）…11月21日(土)午前・22日(日)

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

高槻現代劇場…11月21日(土) 午後のみ

〒569-0077 大阪府高槻市野見町2番33号



4. 学術大会参加費

- (1) 医師：10,000円
- (2) その他の方（臨床研修医、コ・メディカル等）5,000円
- (3) 懇親会参加費 3,000円

5. お問い合わせ

運営事務局

(株)ジェイコム コンベンション事業本部内

〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1

ダヴィンチ芝パークA館7階

TEL：03-5403-7834 FAX：03-5403-7839

E-mail：57jsomt@jtbcom.co.jp

学術大会事務局

組織委員長 土手友太郎 (大阪医大 衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ 准教授)

〒569-8686 高槻市大学町2-7

TEL：072-684-7368 FAX：072-684-6519

E-mail：hyg011@art.osaka-med.ac.jp

日本職業・災害医学会「第2回海外勤務 健康管理指導者認定研修会」のご案内

日本職業・災害医学会は海外勤務者の健康管理に必要な知識を提供することを目的として、「第2回海外勤務健康管理指導者認定研修会」を第57回日本職業・災害医学会学術大会の会期中に開催いたします。

受講資格は、1) 日本国の医師、歯科医師、看護師、保健師、助産師免許を有する方で、2) 指導者認定申請時において同学会会員である方です。本研修会を受講し、同学会指導者認定制度委員会の審査に合格した方が海外勤務健康管理指導者と認定されます。

期日は平成21年11月22日（日曜日）13時～17時、会場は第57回日本職業・災害医学会学術大会のH会場（大阪医科大学）です。同学術大会参加費（当日支払い）と、研修会受講料2000円（事前振込）が必要です。募集人員は80名、申込期限は10月末日です。申込方法は同学会のホームページ（<http://www.jsomt.jp/>）をご覧ください。（文責 久保田）



私たちの職場 (15)

“わくわく健康考働 (こうどう) づくり”号 は船出してヒヤヒヤの2年目

三菱樹脂(株)長浜工場 健康管理グループ 保健師 上坂 聖美

琵琶湖の北部、湖北ドライブウェイからの眺めは、まるでスイスのレマン湖を彷彿とさせる絶景です。その素晴らしい景色を有する湖北地域の中心都市、また豊臣秀吉ゆかりの地でもあり、現在は黒壁で有名な滋賀県長浜市に職場があります。三菱樹脂は、1946年長浜で産声をあげ社名変更、統合等の末、昨年、新生三菱樹脂が誕生しました。当社は、国内はもちろん、世界各国に広がるグローバルネットワークを確立しており、私が所属する長浜・浅井・山東の湖北地区の三工場は国内最大規模の事業場となります。当工場の製品を紹介しますと、身近なところで食品包装用ラップフィルム（ダイアラップ）、ペットボトルとラベルフィルム、薬の包装材PTPシートその他PC関連部材、住宅関連部材、パイプ類等多種多様な樹脂製品などを製造しています。健康管理対象者数は、関係会社、協力会社を含めると約2900名です。昨年春、診療所の閉鎖に伴い、健康管理グループが発足し、総務部長を筆頭に、非常勤産業医1名、保健師の私と事務系4名の7名で“楽しく健康づくり”をモットーに「わくわく健康考働づくり」をスタートしました。

昨年手がけた仕事は3つあります。1、メタボ関連教室の開催：特定健診の階層分けを利用した「受診勧奨レベル」対象者向けに半年間の教室を開催。参加者は40名(参加率1割)、成果がでたのは参加者の6割。2、健康風土づくり：一般従業員対象に生活習慣病予防の講話を18回実施。当事業場には「工場安全の日」という集団教育の時間があります。5月と1月に各9回開催され、5月の参加者約900名に「理解度」や「講話後の決意」等の、自記式アンケート調査を行いました。回収率8割、内6割が「運動を決意」と回答。それも運動習慣の一番少ない40代に高い回答が得られました。

3、従業員への保健師PR：健診の機会を逃さず、前回の健診データを元に保健指導を実施。今年は、昨年の反省と課題を受け、1、メタボ関連教室では参加率向上のため、開催時間の工夫。2、「運動」を決意した方の支援も含め、10月の全国労働衛生週間に合わせ、1ヶ月間の職場対抗歩数競争「uki uki wow King」を企画しました。この秋で数回目(定期・二次健診・特殊健診等)となる健診時面談で感じることに、例えば肝機能異常の方へ、ウイルスチェック等の精密検査を勧めても、「分かってる、酒、飲み過ぎや！」で済まされていたのが、だんだん耳を傾けてくださるようになった事です。

また、1年経った今春から、本社に統括産業医と長浜工場に新卒保健師1名が加わり体制も強化されました。統括産業医の発案で、毎月、健康管理グループ会議をもつようになり、グループ員間の意思疎通と問題点の共有化を図りました。理想の産業保健活動へ向けに基盤づくりが始ったばかりで、昨年を越える成果がでるのかヒヤヒヤドキドキの毎日です。



(統括産業医来室時の一部の仲間たちです)

会員の声



医師の過重労働 兵庫医科大学公衆衛生学教室 島 正之

兵庫医科大学に赴任して、早くも5年が経過しました。もともと環境保健を専門としてきましたが、現在は医学部の公衆衛生学教育の中で産業保健に関する講義、実習を担当し、また兵庫産業保健推進センターの相談員も担当させていただくなど、産業衛生についても勉強しながら取り組んでおります。

先日、兵庫県医師会の産業医研修会が「医師不足と過重労働」をテーマとして開催され、私もその一部を担当させていただく機会がありました。わが国の病院病床数、国民1人当たりの受診回数はOECD諸国の中で最多クラスであり、保健医療水準は世界でトップクラスと評価されているのはご承知のとおりです。しかし、人口当たりの医師数はOECD諸国で最低レベルであり、日本の医療は数少ない医療従事者の献身的な努力で支えられているのが実状です。医師には医師法による応召義務があるだけでなく、病める人を救うとい

う使命感を有していることから、このような献身的な活動が成り立っているといえます。しかし、最近は医学技術の進歩や患者の意識など、医療を取り巻く環境が大きく変化し、医師への負担はますます過大になっています。医師の過労死の事例が報告されておりますが、日本の医師の自殺率は一般国民の1.3倍であるという指摘もあります。

最近になって、国もようやく医師不足を認め、医学部の定員増に踏み切りましたが、その効果が現れるのは早くても8年後です。そして、仮に医師数が増えたとしても、十分な労働環境が確保できるのかどうかは定かではありません。現在でも、働く意欲がありながら労働環境が整備されていないために医療に従事していない女性医師が存在します。そのような先輩を見て、将来に夢を抱くことができない医学生もおります。すべての医師が安心して働けるような環境を急いで整備する必要があると考えます。

医師は「全生涯を人道のために捧げる」(ヒポクラテスの誓い)という使命を有しています。医師の過重労働をすぐに解消することは困難ですが、その使命を果たすためにも自らの労働環境と健康管理にもっと関心を持っていただき、少しずつでも改善されることを期待しています。

私の職場

大阪府立公衆衛生研究所
熊谷 信二

私の職場である大阪府立公衆衛生研究所(公衛研)は、1960年に大阪府立衛生研究所と大阪府立労働科学研究所を統合してできたものです。来年は50周年を迎えます。大阪府立労働科学研究所の前身である大阪府立産業医学研究所は1946年の設立ですから、産業保健部門は63年が経過しています。その間、三浦武夫先生、東田敏夫先生、原一郎先生など、錚々たる先生方が在籍し、大阪の産業保健を引っ張ってこられるとともに、全国的にも活躍されてきました。

私が公衛研に入ったのは1985年ですが、既に上記の3先生は大学などに転出されておりました。当時は労働衛生部という部があり、19名の研究員が在籍しておりました。しかし、その後は欠員補充されず、私の後に労働衛生部に新人が入ったのは、2000年になってからです。欠員補充がされない理由は、産業保健は国が管轄する分野なので、大阪府としては取り組む必要がないというものです。私たちは、大阪府には中小企業が多

く、国の取り組みだけでは不十分であり、自治体としても取り組む必要があると主張してきましたが、行政からはなかなか認めてもらえませんでした。2003年に機構改革があり、労働衛生部と公害衛生室が合併して生活衛生課になり、さらに2009年に生活衛生課と環境水質課が合併して、現在は生活環境課という名称になっています。このため、生活環境課は、上水分析、下水処理、家庭用品中の有害物分析、公害衛生、室内環境、産業保健などの多くの分野の仕事をしています。産業保健に関わっているのは3名で、それも他の仕事も受け持ちながらという状態ではありますが、医療従事者の抗がん剤曝露に関する調査に取り組んでいます。

私自身は鉛、有機溶剤、粉じん、ホルムアルデヒドなどの作業環境測定を行うとともに、奈良県立医科大学の車谷典男先生と共同で石綿の疫学調査を実施しております。兵庫県尼崎市のクボタの旧石綿管製造工場周辺での中皮腫患者の調査や、岐阜県羽島市のニチアスの旧石綿工場の周辺住民の肺がん死亡調査では、工場近隣の石綿濃度が高かったと推定される地域では、住民の中皮腫や肺がんのリスクが高くなっていることを明らかにすることができました。また、大阪府内では河内長野市にあった旧石綿工場の周辺住民のコホート調査を実施しております。

会員の声



(新型)インフルエンザ感染 予防策・・・雑感

(株)クボタ 人事部 健康管理室
クボタ本社産業医 北村 栄作

新型インフルエンザA / H1N1 (以下、新型インフル)が猛威を振るいだした。やはり季節性インフルエンザと同じで、集団感染の大半は学校で発生しているらしい。何故、小・中・高校生(大学生も?)の間で容易に感染が拡がるのか? 他の要因もあろうが、決定的要因は人と人の間の距離が近く、身体接触の機会が多く、ペットボトル飲料の回し飲みすら行うことであろうと考える。「インフルエンザ・ウィルスの主な感染経路は接触感染である」という米国CDCの主張は『なるほど』と肯ける。インフルエンザ流行時期、学校での集団感染防止対策として学級閉鎖が行われるが、①座席の間隔を1m以上にする、②体育の授業で身体接触を伴う競技は避ける、③有効な手洗い方法の指導徹底、④飲料の回し飲み禁止等の対策を併用することで代替できないものか?・・・と科学的根拠は知らないが、小生は勝手に考えている。

日本でのインフルエンザ(感冒も)予防策として、①マスク着用、②手洗いと必ず3点セットで必須のように掲げられる“うがい”の効果について以前から非常に疑問を抱いている。「気道粘膜に付着したウィルスは30分以内に細胞内に侵入する」と聞くだけでも「人混みの中では30分以内に1回“うがい”をしないといけない」という非現実性に気付く。また、“うがい”は“鵜飼”を語源(魚を飲み込んだ鵜が後で吐き出す様子が似ている)とし、日本古来(平安時代から)の習慣で〔出典:Wikipedia〕、「ガラガラ(喉)うがい」を行うのは日本人だけ」と最近知った。極めつけは、うがいの感冒予防効果を検証した研究論文が日本発(当然だが)の1編しかなく、「被験者を“うがい無し”、“水うがい”、“ヨード液うがい”の3群に割り付け、1ヵ月間100人中の発症率を調べたところ、“水うがい”では“うがい無し”よりも発症率が40%低かったが、“ヨード液うがい”では12%低値に留まり有意な発症抑制効果を認めなかった」という結果である。どのインフルエンザ予防の情報提供文書・ポスターにも、単に“うがい”とだけ書かれ、「うがい薬は“ポビドンヨード”を使用」と指定・推奨されていないことに合点納得する次第である。予防効果を信じて一生懸命に“うがい”をする人達に何と言えよいのであろうか?



『企業文化と産業保健活動 について』

オムロン(株)
健康管理センター
堀本 綾

学会や研修等で名刺交換をさせていただきますと、9割以上の確率で「健康機器のオムロンさんですね。」と言われます。そして、「いえいえ、健康機器メーカーはグループ会社で、オムロン本体の方は、制御機器などが中心の機械製造業です」と訂正させていただくのが、私の挨拶の通例となっています。このように、世間では圧倒的に「オムロン=健康ブランド」として浸透しているのが現状であり、その「企業ブランド」に恥じないよう社内の健康を充実していくことが私の職務であると考えています。

での調和や協調を重んじる日本においては特に、企業文化の個人に及ぼす影響は大きいと感じます。そのような企業文化は、健康に対する社員の考え方にも深く影響しています。「社員個人の健康を尊重する文化」か「個人の健康より企業の生き残りを優先する文化」かによって、私たち医療スタッフの働きやすさは大きく変わってきます。いつの時代においても、企業のトップともなれば社員の健康が重要であることは十分理解しておられると思います。しかし、そのトップの考えがどの部署にも深く浸透し、日々実行されているかどうかは企業文化によって違いがあるように感じます。個人の健康が尊重される文化においては、私たちが特段手を加えなくても、社員は常に健康の事について考え、自分で必要な健康行動を実行することができています。一方で個人の健康が尊重されず、社員が自らの健康を顧みることなく働くことを美德とするような企業文化では、私たちがいくら手を尽くしても、社内の健康問題は解決しません。

私は、産業保健での経験は浅く、まだまだ無知であることがたくさんありますが、産業保健を進める上で非常に重要であると感じることが1つあります。それは、「企業文化」です。若干の例外こそあれ、企業の文化は、その会社全体に深く浸透しており、社員の物事の考え方の基本をなしているように感じます。全体

個人の健康を尊重する「よい企業文化」を維持していくこと。もし、その文化がない場合は、その文化を根付かせ、社内に浸透するよう働きかけていく事が、私たち産業保健スタッフの重要な役割であると私は考えています。

メンタル対策支援センター 事業について



大阪産業保健推進センター
副所長

坂井 篤

現在の日本社会では11年連続で自殺者が3万人を超える状態にあり、その人数は先進国の中で圧倒的に多いとされている。さらに警察庁調べによると自殺者のうちの3割が被雇用者・勤め人（会社役員等管理職職業を含む）である。また厚生労働省実施の平成19年労働者健康状況調査によると、職業生活において強い不安、ストレス等を感じる労働者は約6割に上り、メンタルヘルス上の理由により連続1か月以上休業し、又は退職した労働者がいる事業場は7.6パーセントであるという結果となっている。

これらの状況を背景に、精神障害等労災支給決定件数は増加傾向にあり平成19年度は268件と3年前に比較し倍増している。

厚生労働省は、平成20年度を初年度とする第11次の労働災害防止計画において「メンタルヘルスについて取り組んでいる事業場の割合を50%以上にすること。」を目標としている。独立法人労働者健康福祉機構は厚生労働省から委託を受け、大阪産業保健推進センター内にメンタルヘルス支援対策センター（各都道府県の産業保健推進センターにある）において、メンタルヘルス対策の支援を事業場におこなっている。

大阪におけるメンタルヘルス支援対策センターでは、毎日カウンセラー等の相談員が在中し、メンタルヘルス対策に取り組もうとする事業場の支援をおこなっている。

また、事業場の要望によりメンタルヘルス対策促進員が、心の健康づくり計画や職場復帰支援プログラムの作成方法、社内のメンタルヘルスに関する相談体制作り等について助言を事業場に出向いておこなっている。

これらの提供するサービスはすべて無料なので、気軽に問い合わせいただきたい。

また、労働者からの一時的な相談にも応じている。（ただし、医療機関ではないので、診療等は行えない。必要によって医療機関等適切な機関を紹介している。）

平成21年度第2回定例幹事会

日時 平成21年9月8日（火） 18:00～20:30

場所 大阪市立大学医学部学舎 18階 会議室

出席 車谷・清田・岡田章・廣部・大脇・山田・植本・西尾・森岡・河合・夏目・宮上・上田・圓藤・木村・久保田・河野（代理）・佐野・鮫島・竹村・日高・藤岡・広田・埴田・中西・藤吉（順不同・敬称略）

欠席：宮下・小泉（順不同・敬称略）

1. 報告事項

1) 事務局移転作業の進捗状況について

大阪市大から奈良医大への事務局移転はほぼ終了との報告あり。奈良医大側では会員名簿管理、会計管理をすでに開始しており、地方会専用電話FAX回線も敷設し、事務局スタッフも配置している。

2) 地方会ニュースの作業経過について

78号、79号を予定通り発刊し、80号の発刊準備に入っていることの報告があった。

3) 本部理事会の報告

新体制となった本部理事の新しい役割分担等についての報告があった。

4) 第49回近畿産業衛生学会（2009年・神戸）の進捗状況

プログラム編成の段階に入っていることの報告があった。

5) 第50回近畿産業衛生学会（2010年11月14日・滋賀）の準備状況

木村次期会長から、開催内容について構想中であることの報告があった。

2. 審議事項

1) 地方会会則等について

地方会役員が改選されたことにともない様々な地方会運営の「根拠」となる会則等を幹事会全体で改めて確認するとともに、本部理事会が移行を考慮している公益法人の形態と地方会活動との関連が論議された。

2) 地方会のホームページの充実について

充実させる方向での意見の一致はみだが、経費・地方会ニュースとの関係・維持管理にともなう地方会事務局の負担など論議すべき課題が複数あるため、広報担当（主として地方会ニュース編集委員会）と総務担当と別途検討することとし、その検討結果案を幹事会に諮ることになった。

3) 産業歯科保健部会の立ち上げに向けての取り組み

自発的な入会を図るべく努力することとなった。

4) その他

第3回幹事会の日程（11月14日）を確認。

会員の異動 (敬称略)

〈新入会員〉

- 天満望美 キヤノンマーケティングジャパン(株)
- 田中康子 パナソニック(株)HA社クリーナービジネスユニット健康管理室
- 金山周次 ダイキン工業淀川健康管理室
- 森山和郎 パナソニック電工(株)本社健康管理室
- 大西圭以子 パナソニック(株)AVC社南門真健康管理室
- 黒木裕子 大阪府警健康管理センター
- 巽 愛 森下仁丹(株)
- 鈴浦千絵 医)幸循会 幸循会OBPクリニック
- 廣瀬順弥 日本たばこ産業株式会社
- 松浦 愛 社団法人滋賀県歯科医師会
- 輪田茂樹 吉祥院病院
- 中野浩一 住友電気工業(株)伊丹製作所健康管理センター
- 中村喜代子 高島屋大阪店健康管理室
- 池田雅彦 三菱電機伊丹製作所健康増進センター
- 竹内利永子 三菱電機伊丹製作所健康増進センター
- 富川明代 三菱電機伊丹製作所健康増進センター
- 若林典子 尼崎健康医療事業財団市民健康開発センターハーティ 21
- 落合 剛 三菱樹脂株式会社社長浜工場
- 西川幸位 島田病院
- 植田秀樹

- 奥野 優 川崎重工業(株)播磨工場健康支援センター
- 小山正美 (株)島津製作所診療所
- 米山浩子 (株)島津製作所診療所
- 金原清之 労働者健康福祉機構大阪産業保健推進センター

〈再入会員〉

- 山本理江 パナソニックエレクトロデバイス(株)キャパシタBU健康管理室

編集後記

マリナーズのイチロー選手が大リーグ史上初の9年連続200安打を達成した。日本人として誇らしい想いと、素晴らしい成績を残しながらも、年々自身のフォームを改造し続ける謙虚な姿勢は見習わなければいけないと感じる。まさに歴史を塗り替えたイチロー選手に続いて『日本の歴史を塗り替える政治』と選挙演説で演説した鳩山新首相による新しい政治が始まった。不景気による影響は働く人を身近で支える立場、また自身が働く立場としても肌で感じる。新型インフルエンザの流行拡大が懸念されるなど、不安要素も多いが、新しい政治にも期待をしたいし、こんな時代こそ、不平不満を口にするよりイチロー選手のように自身を振り返り謙虚な気持ちで仕事に取り組んでいきたい。
(担当：藤吉)

大塚製薬 秋の新商品

9/29 新発売

バランス栄養食
カロリーメイトブロック(メープル味)




ほのかな甘さと華やかな香りがうれしいメープル味。

メーカー希望小売価格(税別) 200円

9/29 新発売

フルーツ大豆バー
ソイジョイブルーベリー



大粒なワイルドベリーの甘酸っぱい味わい。

メーカー希望小売価格(税別) 115円

8/3 リニューアル

イオンサプライ
ポカリスエット900ml
ペットボトル



地球にやさしいエコボトルに。

メーカー希望小売価格(税別) 190円

11/4 新発売

BCAAサプライ
アミノバリュー4000



必須アミノ酸BCAAを4000mg含有。エコボトル採用。

メーカー希望小売価格(税別) 171円



大塚製薬株式会社大阪支店
〒530-0005 大阪市北区中之島6-20-40
TEL: 06-6441-6532